

印西大師 第67番 松崎・多聞院毘沙門堂

1 名称 (No.067)〔手引鏡：毘沙門堂〕〔資料館：多聞院毘沙門堂〕〔行程表：毘沙門堂〕

2 場所 印西市松崎396 多聞院

松崎・三郷堂から道程約680m

GPS座標 35.77852957811708, 140.13759728882428

3 由緒 天台宗 普光山 多聞院 長安寺

松崎村字中郷にあり 天台宗にして泉倉寺末なり 阿弥陀如来を本尊とす 由緒不詳 境内仏堂一字あり即ち一.毘沙門天 (印旛郡誌)

4 御堂 毘沙門堂の前に一つの大師堂があり、御堂の右側に第50番、左側に第67番の番号プレートが貼られ、丸彫りの御大師様が各1体、計2体あり。

5 境内 境内は広く、毘沙門堂のほか、山門、本堂、松崎中央会館（隣にトイレあり）の建や、大銀杏がある。

6 写真 (2015.11、2022.03、2023.03撮影)



第50番と第67番の大師堂



第67番の御大師様



毘沙門堂



第67番(左)と第50番(右)の御大師様



黄葉の大銀杏

7 情報

(1) 印西大師 第67番 毘沙門堂 御詠歌 (泉倉寺本による)

植置(うえおき)し小松尾寺を眺(なが)むれば 法の教への風ぞ吹き来る

四国八十八ヶ所 第67番 真言宗善通寺派 小松尾山(こまつおざん) 不動光院 大興寺(だいこうじ) 写し

(2) 毘沙門堂

松崎の中郷にある毘沙門堂は、約230年前までは、前戸の俗に「毘沙門堂」と呼ばれる場所にあった。この旧毘沙門堂の創建当時(約700年前の正応のころ)は印旛沼は今より陸地に深く入りこんで、前戸は中郷の前の津(湊)であったという。旧毘沙門堂が寺院化して普光山多聞院になった時期は不明であるが、創建以来、何度か火災や水害に見舞われたことであろう。現在

の毘沙門堂の建立年代を東京大学の某教授は約230年前と推定されている。境内にのぼる石段には「宝暦十年」（1760年）の銘を見るので、多聞院が前戸から中郷の高台に移転されたのは、そのころのことであろう。移転の決定的な契機は火災か水害であろう。これと関連して、地元には「佐倉市岩名の玉泉寺にある仁王尊は松崎の多聞院から流れ着いた」という云い伝えがある。（山本忠良著「印西外史」より）

(3) 木造毘沙門天及び両脇侍立像（3軀）

中尊である毘沙門天像は、カヤ材の寄木造で、像高139センチメートルです。頭部は両耳の後ろで前後に割られ内刳(うちぐり)され、つなが合わされ、胸部の襟の線で挿首とされています。体部も前後に割られ内刳され、つなが合わされています。両腕は肩と手首でつなが合わされています。髻を三束に結び、宝冠台を着け、眉を吊り上げ、怒りの目で口を真一文字に結びます。皮甲を着け、左腕は肘を曲げて戟(げき)を握り、右腕は腰脇に当て、腰を右に捻り、左足を少し脇に開き邪鬼の上に立ちます。



両脇侍はカヤ材の一木造りで、前後に割られ内刳され、つなが合わされています。吉祥天像は肩と手首でつなが合わされ、像高101センチメートル、髻を結び、額の上に飾りを着け、垂髪を背に垂らし、長い袖の衣を着けています。

善膩師童子像は手首でつなが合わされ、像高96センチメートル、髪を鬢に結び、狩衣を着け、両手で箱を献げる姿をしています。3尊とも彫眼で、また本来は着色されていたものと思われますが、現在は素地像です。

毘沙門天像の胎内に正応2年（1289年）6月に比丘尼法達と僧明観が平和を発願し、谷田部重光と景光が助成したことが記されています。吉祥天胎内からは、仏師賢光の墨書銘があり、三尊とも賢光一連の作と考えられています。

毘沙門天は仏教における四天王のうちの北方を守る神、多聞天をいい、吉祥天は毘沙門天の妃、善膩師童子は毘沙門天の天子です。

毘沙門天は気迫ある像で、全体の厚手な木取り、頬を強く張った顔、太い首、いかり肩の姿など、鎌倉時代の特徴である写実性がよく表現された作品になっており、吉祥天と善膩師童子を脇侍とする三尊形式の毘沙門天の典型例として貴重な作例です。

毎年7月最終土曜日に開帳されます。（印西市HPより）